

備前中だより

《学校教育目標》「未来を拓く 自立共創する生徒」

《指導の重点》 将来社会人として自立するための力の育成

《育成する力》 自分で考える力・自分で決める力・自分の言葉で表現する力・自ら実行する力・自他共に受け入れる力

備前市立備前中学校通信
第2号

令和8年6月2日発行

校長 岸本 憲一

TEL 0869-64-3365

体育会へ向けて ～心を一つに～

いよいよ6月5日（金）の体育会が目前に迫ってきました。昨日、予定を前倒して体育会の予行を実施しました。当初は6月2日を予定していましたが、台風接近に伴い2日・3日が雨予報となったため、急遽6月1日に変更しての実施となりました。急な日程変更にもかかわらず、生徒たちは協力して準備に取りかかりました。てきぱきと動く姿からは、「自分たちの体育会を自分たちでつくる」という強い意志が伝わってきました。



予行では、これまでの練習の成果を発揮しようと、真剣な表情で競技に臨んでいました。また、係の生徒たちも、係会での打合せを踏まえ、自分の役割を責任をもって果たそうとする姿が随所に見られました。支える側の動きが整うことで、体育会全体の空気が引き締まり、学校全体が一つのチームになっていくのを感じます。

今年の体育会スローガンは、「繋げ 輝け ～価値ある勝ち 青春 MAX～」です。このスローガンには、優勝することだけが体育会の価値ではないという思いが込められています。目標に向かって努力すること、仲間を思いやり、ともに高め合うこと。その過程こそが、生徒たちにとって「価値ある勝ち」であり、青春の輝きそのものです。実行委員を中心に、まさに心を一つにして取り組む姿が、今年の体育会をより特別なものにしていきます。体育会当日、生徒たちがどんな表情でゴールを駆け抜けるのか、どんな声をかけ合い、どんなドラマを生み出すのか、今からとても楽しみです。

なお、今年度より体育会・合唱祭といった学校行事を平日開催としています。この方針については昨年度、保護者の皆さまにもお伝えしておりますが、改めて背景を共有させていただきます。近年、クラブチームの大会や他支部の総体、高校のオープンスクールや説明会など、生徒の進路や挑戦に関わる行事と学校行事が重なるケースが増えてきました。その結果、どちらかを諦めなければならない状況が生まれ、生徒たちが本来挑戦できるはずの機会を逃してしまう事例が見られるようになりました。こうした状況を受け、学校としては、生徒が進路・スポーツ活動・学校行事のすべてに全力で取り組める環境を整えることが大切だと考え、平日開催へと踏み切りました。保護者の皆さまにはご負担をおかけする部分もありますが、子どもたちの可能性を広げ、挑戦の場を守るための取り組みとして、ご理解とご協力を賜れば幸いです。

生徒総会 ～自分たちの手で創る「備前中」の未来～

5月21日（木）、5・6校時を使って生徒総会を実施しました。今年度も、配信会場と各教室をオンラインでつなぐ形で行いましたが、画面越しであっても、生徒一人ひとりが「より良い学校にしたい」という思いをもって参加している様子がしっかりと伝わってきました。

総会では、生徒会執行部、各専門委員会、部活動の活動方針が示され、令和7年度の決算報告および令和8年度の予算案の審議が行われました。これにより、今年度の備前中学校が進むべき方向が正式に決定しました。特に、各学級からの提案・要望を扱った「第6号議案」では、日常の学校生活を自分事として捉えた意見が多く出され、生徒たちが普段から学校のことを真剣に考えていることがよく分かりました。ただ、現時点では実現が難しい要望もありました。しかし、課題を1つずつ整理し、みんなで知恵を出し合い、行動を積み重ねていけば、実現に近づいていくものもあります。「こんな学校にしたい」という思いを言葉にし、そして行動に移していくことで、誰もが通いたくなる魅力ある学校に近づいていくと思います。

また、本総会に先立ち、4月には臨時生徒総会を開催しました。そこでは、通学靴の規定にある「ただし、運動に適したものに限る。」という一文を削除する案が提出され、賛成多数で可決されました。これを受け、生徒会執行部からは私へ正式な要望が届いています。この提案の背景には、「通学には運動靴以外にも適したものもあるのではないか」「運動時には運動に適した靴を履けばよいのではないか」という、生徒たちが自らの生活を見つめた上での考えが込められています。自分たちの学校生活をより良くするために、主体的に考え、判断し、行動しようとする姿はとても頼もしく、備前中の未来を自分たちの手で創ろうとする力強さを感じました。

